



加藤一生 議員 (白和)

(株)サラダボウルの現況はどうか

答弁…7年度からイチゴの栽培を開始予定

問 (株)サラダボウルが間もなく開業する。最新の生産物の状況はどうなっているか。また、市民に対して、どのようなサービスを準備しているのか。

答 6年度から高度環境制御型ハウス※1の整備に着工し、7年度からイチゴの通年栽培を開始する予定である。数年後には、第2期土地改良事業で整備する新幹線南側の農地において、直売所や観光農園など、地域の憩いの場を創造する施設の整備を予定している。



(株)サラダボウルの事業予定地

安全 児童・生徒の登下校時の交通安全対策は

答弁…安全指導や交通安全教室を行っている

問 4月には小・中・高の新1年生が入学してくる。そこで、児童・生徒の登下校時における交通安全を徹底させるため、いかなる対策を取っているのか。また、それを周知させる方法は。

答 児童生徒への安全指導は、交通ルールを守ることや自分の命は自分で守るという心構えを繰り返し指導するとともに、関係機関の協力を得て交通安全教室を行っている。新入生説明会で交通安全への協力や、学区内の危険箇所を周知している。

※1「高度環境制御型ハウス」とは、空調、光源、灌水装置、暖房機、送風機などを統合的に管理し、作物の栽培に最適な環境となるよう自動制御する園芸ハウスのこと。



斎藤信治 議員 (WAKABA)

障がい者のQOL※2向上に

答弁…障がいの特性に応じた対応をしていく

問 1.福祉の店の開店から半年経過した。検証や改善のために事業者との話し合いが必要ではないか。2.障がい者による絵などを発表する場がない。作れないか。3.視覚障がい者のためのサービス(点字翻訳・音読)利用者が少ない。ニーズ把握が必要では。

答 1.福祉の店に関する提案や意見あるいは課題や問題点を話し合う機会を設ける。2.障害者週間等の機会を活用し、絵画などの作品の発表の場を造っていく。3.障害福祉サービスの更新時などの機会を捉え、生活の困難さなどを把握していく。



福祉の店オープン

学校 寝屋川モデルの導入を

答弁…地域の実情を踏まえながら考えていく

問 寝屋川市では、独自のいじめ対策(寝屋川モデル)を実施している。教育委員会や学校だけでなく、市長部局が第三者の立場でいじめ対策を行う。先生に言えない事案も外部の市長部局には話せるので、隠れたいじめの発見につながっている。当市に導入できないか。

答 寝屋川モデルの導入には、弁護士資格を有する職員の任用による専門性の確保や教育委員会との連携など、事前の環境整備が重要となる。当市での導入は、寝屋川市における事例対応などを調査研究し、地域の実情を踏まえながら考えていく。

※2「QOL」とは、「Quality Of Life」の略称で「生活の質」の意味